

【問題】省略

【解答例＝内倉】

1)

後景の蜘蛛の巣と前景のキリ、三又のモリは、直接的な繋がりはないが、二本の間に置かれた二筋の血のようなものによって、敵を欺き拘束するための罟と捕獲したものを責め苛むための道具という連関性を顕現させる。

2)

敵を罟にかけ拘束するための蜘蛛の巣、拘束した敵を責め苛むためのキリやモリであるならば「人を愛する」こととは無縁である。本来、蜘蛛の巣は人を含めた自然の生態系の中にある。また、キリやモリも人間が自然の中で生活していくために発案した道具であり、いたずらに他の生物を抑圧するものとしてあるのではない。

しかし、私たち人間が自然を見誤り、自然に対する畏敬の念を失うと、蜘蛛の巣はたちまち他人を陥れるための具という隠喩性を帯びることになる。同時に、キリと一緒に並べられたモリは魚を捕獲する道具から戦場で人間を殺めるためのヤリとして、発案の本義から大きく外れた姿となる。この二つの素材の連関は「人を愛すること」ということか反証となっている。

人を愛することから遠く隔たってしまった私たちには、人間と自然との関係を本来のあり方に戻すことが急務である。現代の私たちに求められるのは、蜘蛛の巣を自然の中に静観し、キリやモリを自然に寄与するものとして蜘蛛の巣の隠喩性から切り離すことである。そのことが、とりもなおさず「人を愛すること」とはどういうことかを私たちに再考させるのである。

【後書—判じ絵の答えと受験小論文の答え】

ユニークな問題だとは思いますが、「奇問」ではない。むしろ「トンチ」でもない。「奇問」と考えてしまうと、適性を判定する試験ではなくなってしまいます。課題では課題絵が「判じ絵」だということが断ってある。「判じ絵」とは「文字・人・物などを他のものに紛らしてかきこみ、それを探させる趣向の絵」（広辞苑 第六版）である。だからと言って、小論文試験に代わって「判じ絵」クイズになったわけではない。判じ絵の答えは「キリギリス」らしい。蜘蛛の巣に置かれた二本の棒はキリで二本の間には文字で言うところの濁点（らしきもの）が付されている。キリに濁点で「ギリ」、それに蜘蛛の巣（「ス」）で「キリギリス」となる。判じ絵の答えとしては「なるほど頓知の効いた」と思われるものであるが、これはいわゆる「言葉遊び」の類である。この絵が何を暗示しているかという問いであるが、暗示のレベル（土俵）が違うのである。「キリギリス」という答えは、はじめから隠されていた答えであり、私たちが絵に対して客観的な分析を試みた時に出てくる答えではない。まず、ビジュアルを材とする素材型小論文の基本的アプローチに立ち返らないといけない。課題絵を現状と照らして客観的な分析を行い、背後にある意味を汲み取る。その上で「人を愛するということ」との関連を説いていく。「奇問」には「奇答」しか用意できないので。

（内倉）